

ウラジオストク

ウラジオストク

ポートガイド

Vladivostok Port Guide

観光情報は、こちら！

ロシア観光局

<http://www.russia-travel.com/>

(英語サイト)

船舶代理店

E.R.M.A.

電話 7-4232-300057



駅前広場

ウラジオストクは日本海に面したロシア沿海州随一の港町です。しかしかつては未開の荒野で、17世紀末からの支配者・清朝（中国）はここを「ナマコの入江」と呼びました。

1860年、一年中凍らない港を探していたロシア帝国がやってきます。同年の北京条約でナマコの入江はロシア領となります。ロシアは「東方を征服せよ」（ウラジオストク）という名をこの港に与えました。

ウラジオストクの街の建設が始まった明治初期、多くの日本人が海を渡り、1920年代には6,000人が暮らしていました。福井県の敦賀港からウラジオストクへの定期航路が開設され、1904年にはシベリア鉄道が全線開通しました。そして、1912年にウラジオストクへの船便とシベリア鉄道に接続する、東京から敦賀港駅行きの列車が開業し、東京とパリを17日間で結ぶ欧亜国際連絡列車の運行が始まります。

しかし、ソ連時代の1930年代にウラジオストクの在留邦人は追放され、東京発パリ行きの欧亜国際連絡列車も第2次世界大戦の影響で

1940年に消滅します。

戦後、ウラジオストクを本部とするソ連太平洋艦隊の軍港として重要視されると、外国人の居住とソ連国民を含む市外居住者の立ち入りを禁じる閉鎖都市となります。

長らく鉄のカーテンに覆われていたウラジオストクが、ソ連崩壊によって再び開放されたのは1992年のこと。それに伴い日本との定期航路も復活します。現在は鳥取県の境港との間に国際フェリー「イースタンドリーム」が就航し、韓国の東海（トンヘ）を含めた3港をつないでいます。日本の中古車も船で運ばれ、それらはウラジオストクの道路を疾走しています。

欧風の建物が軒を並べる坂道を路面電車がガタゴト走っていくさまは「日本の間近にあるヨーロッパ」を実感させてくれる眺めです。

2012年にはここでAPEC首脳会議が開催され、会場だったルースキー島や連絡橋など、新たな国際都市としての表情も持っています。

* * *



① アドミラーラ・フォーキナー通り

ウラジオストクのメインストリート・スヴェトランスカヤ通りに並行して走る通りです。「噴水通り」との異名を持つだけあって、道路には数多くの噴水と色とりどりの花が咲き乱れる花壇があります。ヨーロッパ風の建物が軒を並べ、ウラジオストクが「日本の間近にあるヨーロッパ」であることを強く感じるストリートとなっています。通りの大部分が歩行者天国となっており、その沿道にはカフェやレストランも多く、散策にはもってこいのスポットです。

② ウラジオストク駅

客船ターミナルと跨線橋で結ばれているのが、シベリア鉄道の東の始発駅であるウラジオストク駅です。跨線橋からはホームに停車しているモスクワ行きの列車も眺めることができます。この線路が、はるか遠いパリなどヨーロッパの都市とつながっていると思うと、感慨もひとしおでしょう。ちなみに、ホームにある時計が指している時刻はモスクワ時間なので、注意が必要です。また、うぐいす色に塗られた、美し

いロシア風建築の駅舎にも目を奪われることでしょう。

③ 鷺の巣展望台

ウラジオストク中心部にそびえる鷺の巣（オルリーノエ・グネズドー）山の中腹にある展望台です。標高は192メートルで、ケーブルカーを使って上ります。ウラジオストクで最も見晴らしがよい展望台で、眼下には金角湾（ザラトイ・ログ）を一望でき、船が停泊する客船ターミナルやウラジオストク駅まで見晴らすことができます。展望台の柵にかけられている数多くの南京錠は、現地っ子たちの恋愛成就のおまじないとか。この周辺にはお土産店もあり、ロシア滞在の記念品を探すのにもいいかもしれません。

④ ウラジオストク要塞博物館

1992年の対外開放まで、半世紀近く閉ざされた軍港だったウラジオストクの歴史を垣間見ることができる博物館です。特に、かつて街中に張り巡らされていた無数の地下道や武器などの展示は、要塞都市

だった側面を今に伝えています。館外に展示されている大砲は、単なるディスプレイではなく、正午になるとウラジオストク市内に響きわたる空砲を放ちますから、合わせて訪問するのもいいかもしれません。なお、入場には大人一人あたり150ルーブルが必要です。

⑤ 潜水艦^{エス}C-56博物館

第2次世界大戦当時、世界最大の潜水艦保有国だったソ連。ウラジオストクの太平洋艦隊にも65隻が配備されていましたが、大戦の終戦時にはその大半が失われてしまいました。C-56は生き残った希少な艦の一つで、現在は陸に揚げられ、見学用の博物館として利用されています。魚雷発射管や第2次世界大戦時の写真などが展示されており、一部は実際に操作することも可能です。入場料は大人一人あたり100ルーブルで、写真・ビデオの撮影は別料金がかかります。

* * *

足を延ばして.....

⑥ 与謝野晶子・詩碑

極東連邦総合大学の分科大学である東洋大学の構内に、1912年にウラジオストクを訪れた歌人・与謝野晶子の詩碑があります。近くには「浦潮本願寺跡」の石碑もあります。

⑦ ルースキー島とルースキー島連絡橋

2012年のAPEC首脳会議の会場で、現在はリゾート地です。市内からは渡船で訪れることができますが、世界最長の斜張橋「ルースキー島連絡橋」を渡って行くこともできます。



港までの所要時間

ウラジオストク駅より

■ 約100メートル



ウラジオストク おすすめグルメガイド

極東ロシア有数の都市だけに、ビーフストロガノフやボルシチ、ペリメーニ（シベリア風水餃子）などを出すロシア料理店はもちろん、中華や韓国料理の店も少なくありません。日本料理レストランもあります。



ビーフストロガノフ

ロシア料理の定番メニューとして、日本人にもなじみの深いものの一つがビーフストロガノフでしょう。肉やキノコをホワイトソースで煮込んで作りますが、ロシアではバターやサワークリームを多量に用いるのが特徴です。ウラジオストク市内のロシア料理店でいただくことができます。



ボルシチ

ロシア料理と聞いて、多くの人がまず連想するメニューといえばボルシチではないでしょうか。実はウクライナの伝統料理で、それがロシアのみならず各国で世界三大スープの一つとして愛されています。ウラジオストクのロシア料理店でもボルシチのない店を探すのが困難なほど、定番中の定番メニューです。

ウラジオストク ホフロマ塗り

おすすめ お土産ガイド

黒地に金や赤で鮮やかに花や木の実や鳥が描かれる、ロシアならではの民芸品です。ホフロマとはボルガ川沿いにある村の名前で、ここで17世紀に作られた工芸品の名として現代に残っています。手ごろなロシア土産として最適で、ウラジオストクでは市内のショッピングセンターや観光地にあるショップなどで買えます。

